東藥新聞

号外

この号外は本紙に再録いたしません

昭和三十年九月二十二日

編集発行責任 東京薬科大学学生部 新宿区戸塚2—600 村山学長

学術祭突如延期

17日運営の委員会で決定

本館増築が原因

開催は来年五月に決定

本年度十一月開催予定の東藥祭学術祭は運営部の努力によつて八分通り用意は進み、試験終了后より約一ケ月ピッチを上げ盛大に行なわれる筈であつたが、今学期初頭に学校側より「予ねて懸案であつた男子部校舎の増築が諸般の準備も整い愈々今年中に完成する方針で着工する」旨東藥祭運営委員会に通達があつた。

この通達により以后同運営委員会では、連日に亘り協議した結果大体、「学校側が現在迄に同運営委員会で聳やした金額を全面的に補償し、而も学術祭中止によつて起される一切の損失に対して補償するならば、敢えて今秋行わずとも工事終了后の適当な時期に落成披露をも兼ねてより立派にする方が良いだろう」との意向に纏まり別項の如き補償條件につき学校側と十七日協議の末全面的な同意を得たので運営委員会としては尚談合の末「今秋の学術祭は行なわず増築工事終了后更めて行なう」と云うことに意見の一致をみた。

尚この件については緊急に学生大会等によつて学生全員の同意を問うことになつた。

学校側と東藥祭運営委員会が協議の際、学校側より秋の延期申し入れ理由は次の如くである。

一、工事の際危険が伴なうので、来客に万一の事が有る際どうするのか、その責任は誰がとるか。

二、足場を組んだりするので外観も見苦しくなる。

三、労務者の出入りも多くなりそこまで責任が負えない。面倒な事を起す可能性もある。

四、工期をすらすらとはコンクリートの関係等で難かしい。

五、工事の二日の中止でも請負工事で工事者側も急ぐし二日分の労務費は当然多くなる。

六、新築を披露する意味でも延ばした方が良い。

七、学術祭には出来る丈多くの日数をかけて満足の行くものにしたい。

これに対して運営委員会側の反駁点は次の様なものである。

一、工事を危険と云うのであれば認諾も、実習も出来ない筈だ。

二、外観は職師の腕で何とかする

三、工事を東藥祭の時丈中止する事で労務者の方は心配ない。

四、丈その時の労務費は、東藥祭中止の際の補償よりも少額で済む

五、ここまで準備して来た努力を認めるべきだ。

六、延期の際どれ丈誠意をもつて学校が補償してくれるだろうか。等であり、以上の点に関して双方で意見を出した末、運営委員会が大きくは学校の歴史的流れに逆らつてまで強行するより無理な所の無い、譲歩も重ねられる延期説へと傾ぶき、その決定となつたもの である。

然し学生の中には

A、工事中でもやれる。今迄の苦心はどうするのか。

B、これ迄の準備を無駄にするのは反対だし、来年は自分としてはもうやりたくない。

と云つた強硬論もあり意見の一致と云つたものは難かしいようである。勿論学生の中でも

C、全然知らなかつた、当然学術祭は有ると思つていたのだが学校の事業は行事より大切だから仕方がない。とか

D、工事が有るとは知らなかつたので仕方がありません。

と云つた意見も多くこの人達にも明年五月説、十一月説と種々有り、この調整も厄介なことである。

準備経費は学校で負担

現在までに約十二万三千円

学術祭の準備に着手以来、現在迄に運営委員会より支出した金額は十二万二千八百五十七円に達するが、これらはすべて学校側に於て負担する事となつた。

従つて明年に延期される学術祭の費用は手かずらの形で用意されることになる。

補償金額内訳次の通り

総額 十二万二千八百五十七円

学術部、文化部への補償、五在円、（渉外部からの入金見込額）

宣傳部、一万一千五百二円

渉外部、一万三百四十五円

その他の運営部

一万六千六十円

学術部、二万四千九百五十円

これは各学術部で費消せる総額

又文化祭に対しては前項五万円の補償によつて支障無く行なわれる筈であり、現に文化部では中野公会堂への予約金八千円の納入も終り準備は全く進行している。

運営委員の選出をめぐつて当初より兎角円滑を欠いていた東藥祭学術祭が漸やく陽の目を見る秋に至つて遂に万止むを得ぬ状況によつて延期と云う事態を引き起したことは行き悩んだ学術祭開催に終止符を打つことになつた。

例年には前年度終了後直に決定すべき委員が六月に至り漸やく確定し、以後三ケ月を例年にない短期の括動によつても角成立の運びとなつたのだが、予め計画されていたとは云え突然発表された学校側の増築工事によつて事実上開催不可能となつたのは現在迄仕事に直接当つていなかつた学生としても、全く残念なことであろう。

独り運営部丈でなし学術各部に於ても、東藥祭を直接間接の目標として夏の間もたゆまず仕事を続けて来たものであるし如何なる点より今年度学術祭が実現出来なかつたかを探つてみよう。

学校側では、今年度行なうことは飽く迄反対と云う態度を示さず、学生の良識をもつて判断して欲しいと再三、協議会で説明して来た。これは学生側が折角多大な時間を割いて此こまで進めて来たことに対して今更とや角云うことは避けると云う意味も有り、男子部職員側では、もし男子部での開催が不能の際は、女子部校舎に於て行なう事が最も妥当な線だと云う意味合いが有つた様であるところが、女子部職員側では最初女子部移行の話の有つた時は、男子部の増築がどの程度のものかはつきり事態を了解せられなかつたので、飽く迄女子部校舎の使用は反対、男子部で行なうと云う説が多かつた様様である。

これが九月十三日、十四日頃、学校側より初めて運営委員会側に通知が有つた時の状態で、運営委員会は両部校舎より使用反対の意見を出されて苦境に立つたのである。

これより、運営委員会側で協議の末、女子部校舎は学校側（女子部）の提示する一、昨年と引き続いて行なうことは避けたい（元来が両校舎で隔年が建前である）。

二、女子部校舎は狭いので非常に不便である、等の意見によりとこ迄も男子部で行おうと云う点で推すべきだとの意見が強く。危険が伴なうと云つても授業に支障の来たさぬものであれば学術祭もやつて出来ぬことはないと強行する意見もあつた様様である。

勿論、渉外と宣傳との二つの部によつて対外関係に與える影響は避けると云う意向となり、二部の懸念していることを学校側に知らせ、その補償はどうなるかを問い合わせたのである。

渉外、宣傳の二部の要求は、要約すれば関係各方面に対する延期と云う事態によつてひき起される不信感、迷惑をどう解決してくれるか、どの程度誠意をもつて事に当る決意があるかと学校側に質したことであるが、例えば、一、延期によつて迷惑をかけた各会社（主として製藥）へお詫びする際は学生丈でなく職員にも廻つて戴だき、深く陳謝の意を表すべきだ、

二、学生からは勿論、学校側からも今回の事態に関して良く説明したおわび状を各会社へ送付して欲しい、等と云うもので、十七日の学校側と運営委員会との話し合いでその点は学校としても諒解されたので、大体運営委員会としても学校の態度を信じ、遂に五月（内定）延期の線に踏み切つた訳である

学校側で、運営委員会の宣傳、渉外二部の両案をのんだ後でも、尚運営委員会では三時間程仲々態度は決定されず、一部には、十一月に開催されないならば来年の五月等と云はずに完全に延期でなく中止とすべきだと云う意見、どうしても十一月に行なうべきだとの意見もあり、この調整には腐心したが、六時、実に学校側より工事計画発表による学術祭延期要請より四日目になつて決定をみた訳である。

尚今年度の文化祭は現委員の手で行なわれる予定であり文化祭終了後、現四年委員の総退陣による運営委員会の大変革が有るものと予期されている。

又、宣傳、渉外二部の要請によつて、学校側では早くも各方面への陳謝を始め、十九日に村山学長自から新藥協会を訪ね、協会側の諒解を求めた。試験前の数日、両部と、教授陣は延期挨拶に暇ないと云う状態である。

又今後の東藥祭、或いは就職等に波及するのではないかと云う懸念も生れて来るので、これに対しても学校側で手をつくしてくれる様願いたい。

講堂と学生ホール実現へ

男子部の屋上に増築

学校側では以前から具体化を急いでいた講堂並びに学生ホール建設につき資金面等の見通しも漸やく成り休暇明けに遂にその計画を発表した。

即ち村山学長は九月十二日恒例の学期始めの挨拶において

「前略—現在の講堂の上に舞台付きの講堂を新設し、その控室も建築し、有機実習室（三階北側）の上に学生ホールを建てる様、既に設計も終り直ちに工事は始められる予定」と発表された。

次いで十三日、会議室において東藥祭運営委員会に対して厳粛事務長より、同様増築の件につき説明があり、工事が意外に早く十月早々より開始し、東藥祭開催日である十一月五、六日をピークとして十二月末迄に完工するとの予定が公表された。

以後、建築設計に当られる松沢工務店との話し合いによつて、工事は十月早々開始される。スメント等の材料置場等で校舎を使用するので東藥祭を行なうに支障を来たす。校舎外側に足場をめぐらすので出来る丈の用意はするが土砂の落下等で幾らか危険性がある。

随つて三階実習室の窓等の開放も実際問題として少々危ないのではないか、又材料は大体北側の裏口から出し入れするが小物は正門からも入る予定なので車の出入りに注意して欲しい。一應十二月二十五日を完工期日としているので早く仕上げるが、東藥祭の為に延びると冬期に入りコンクリが凍る等の悪條件も重なるので工期を遅らす訳にも行かない。等と云うことが判つた。

規模は講堂が八十坪、高さ三米鉄筋で舞台をつけ、隣接して控室が出来有機実習室上の学生ホールは約七十坪、高さ二米でこの中の使い方については学生の協議の末決める様様である。又設計図によれば両建物共瓦屋根で有り、五階建ての瓦屋根かと面食らつている学生も有る。

末確認の話では現在小使室前に在る各運動部の部室は全部この新築される四階の学生ホールに移されると云う話も有るが、又そうなると可成りの混乱を生じるであろう、自治会諸氏の一考を望みたい。

自治会でも諒解

来年度への延期

運営委員会の要請に基ずき、態度の表明を迫られていた自治委員会でも、二十一日午后、その旨諒解し、五月延期と云う意見を承認した。

尚自治会での協議によると明年度の五月と言う説について異論がある様である。

又学生大会を行なつて全学生の意向を訊ねるかどうかと云う事では各委員共反対の意見で、各級毎に職員側と佐藤東藥祭委員長による説明を行なうべきだとの意向である。これは近日中に行なわれる筈である。

女子部も承認

女子部学生会では十九日、延期説を承認した。

又一部には明年五月開催反対説も有りその行方は余断を許さないと思われる。

女子部でも増築か？

時期は明後年を予定

寺阪女子部長は十二月の東藥祭協議会の席上「明後年頃には女子部でも増築工事を始めるのでその時は女子部で—」と言明された。

解説

全く難航した本年度学術祭

学校側に問題なし

明年度での開催

同協議会の際易年開催の際には学校側の全面的協力を得られることとなつた。

即ち、N教授は「今迄の様に傍観していた態度をよく改めて、学生と良く話し合つてその努力をくんでやるようにしよう！」と言及されS助教授は「学生が器具藥品等の取り扱いに責任をもつて紳士的に行うならばいつやつても宜しい」と約束された。同協議に出席された教職員は全て明年の開催に異議なく出来る丈の援助を與えることに同意された。

薬連学術祭

十一月に東大で開催か

藥連学術委員会での決定では、今秋東大を主催校として同学で藥連学術祭を開くと云う。

本学からは化研、植研、微研等の参加が予定されているが対象が一般人の為、東藥祭同に準備したものをふり向ける様になるかも知れないと云う。

文化祭は予定通り

十一月十一日に開催

十七日の運営委員会と学校側との協議会において文化祭に対する予算面の裏付けは大体ついたので予定通り、十一月十一日中野公会堂において開催の運びとなろう。

又この時に同公会堂を最大限に利用して学術祭延期の結果開かれなくなつた美術、写真等の展覧も行なわれる予定である。

既に予約も終り試験終了後の活躍がまたれる。

★ ★ ★

只さえ不況の折に斯かる失態を演ずることの不利は覆いがたいが凡ゆる面で今後支障を来たさぬ様学生側も努力すべきであろう。

又本学主催の藥連美術展、写真展は村松ギャラリー（銀座・松阪屋横）で開催。

美術展は終つたが写真展は今日明日とも七時まで行なわれる。本学文化祭の先ぱしとして目下注目の的である。